

情報連絡員だより

－令和2年5月の報告より－

緊急事態宣言解除されるも、
依然として需要低迷

業種 / 景況天気図		概況
全	体	新型コロナウイルスの感染拡大は収まりつつあるものの、依然として社会・経済の活動は停滞しており、全体的に需要は低迷したままとなっている。また、先が見通せないことも大きな不安材料となっており、今後について悲観的な見方が大半を占める。影響の長期化も懸念されるなど、難局を迎えている。
製 造 業	食料品	パンは、緊急事態宣言期間とGWが重なり売上大幅減少、学校給食も再開せず厳しい状況。菓子は、観光地のお土産需要が失われ、全体的に業況悪化。製麺は、小売販売は比較的好調で、一部乾麺が操業拡大したが、業務販売が低迷。食肉は、豚肉は堅調が続くが、外食向けの牛肉需要が落ち込み売上減少。
	繊維・同製品	刺繍は、5月中の展示会がすべて中止となり、翌月以降の受注量減少に不安を抱いている状況。繊維製品は、業況は悪化傾向だが、組合の枠を超えた様々な企業の協力を得ながら、医療用ガウンの製造を始めている。桐生織物は、業況の悪化が続く。伊勢崎織物は、新型コロナの影響は表立っておらず、底堅い状況。
	窯業・土石製品	生コンは、新型コロナの影響で住宅工事等の延期が発生し落ち込んだ地域もあるが、前年並みの出荷量を確保。砕石は、昨年台風災害関連工事により出荷量が増加する地域もみられるが、業況は前年並み。砂利は、依然として新型コロナの影響は少なく前年並みに推移。コンクリートブロックは、今後の業況悪化を懸念。
	機械・金属	鍍金は、取引先の休業に伴い稼働率がさらに悪化。機械・金属は、新型コロナの影響による受注減で売上が減少し、資金繰りの悪化を新型コロナ関連融資で凌いでいる様子が窺える。また、仕事量削減のため臨時休業を実施する中、翌月の受注量も大幅に減少しており、コロナ倒産が現実味を帯びてきている。
	その他の製造業	木材は、新型コロナの影響が大きく、製品単価が前年比で2～3割低下。紙加工品は、自動車関連、菓子・お土産、冠婚葬祭など様々な分野で需要が激減し、売上は2～5割減。ゴム製品は、取引先の生産低下に伴い操業度が大幅に落ち込み、休業で対応。印刷は、業況が悪化し先行きが見通せない状況が続く。
非 製 造 業	卸売業	卸団地は、一部で新型コロナによる特需もみられるが、展示会・商談会などの販促活動が行えず苦しい状況。農産物卸は、観光・飲食・給食の需要が落ち込み、先の見えない状況を不安視。水産物卸は、売上悪化で前橋市内の市場は土曜日を休止とする予定。建築材料卸は、住宅建築の伸び悩みにより先行きを不安視。
	小売業	燃料小売は、外出自粛に伴いGWの売上が落ち込み、全体で3～4割の減少。生花小売は、母の日需要は例年並みだが、冠婚葬祭需要が大幅減少。商店街は、緊急事態宣言解除後も客足が戻らず閑散。中古車オークションは、新型コロナ対策でインターネットによる無来場競売を実施するも、成約台数は大幅低下。
	サービス業	温泉旅館は、緊急事態宣言解除後も県のガイドラインに従って休館したところが多く売上激減、今後も休業継続や受け入れ体制の整備に苦慮。建築設計は、個人・企業ともに建築需要の減少が著しく先行き不透明。不動産取引は、新聞広告チラシなどを控えたこともあり引合いが減少。自動車整備は、業況は前年並みに推移。
	建設業	建設工事は、特に民間工事で中止や延期が発生。電気工事は、製品未納や工事遅延などが経営を圧迫。塗装工事は、受注案件取り止めや営業自粛などによる契約の遅れで売上減少。鉄構は、東京五輪の延期をはじめ不確定要素が多く、鉄骨需要の見通しが不透明。解体工事は、受注の端境期と新型コロナの影響で売上減少。
	運輸業	帰り荷の確保に苦慮するなど荷動きは鈍く、運賃の急落も散見され、先の見通せない状況が続く。野菜関連は、キュウリやトマトなどの輸送が好調で、翌月以降にも期待感がある。小口配送は、医薬品など安定した配送をはじめ、全体的に依頼が減少しており、売上・収益ともに減少している。